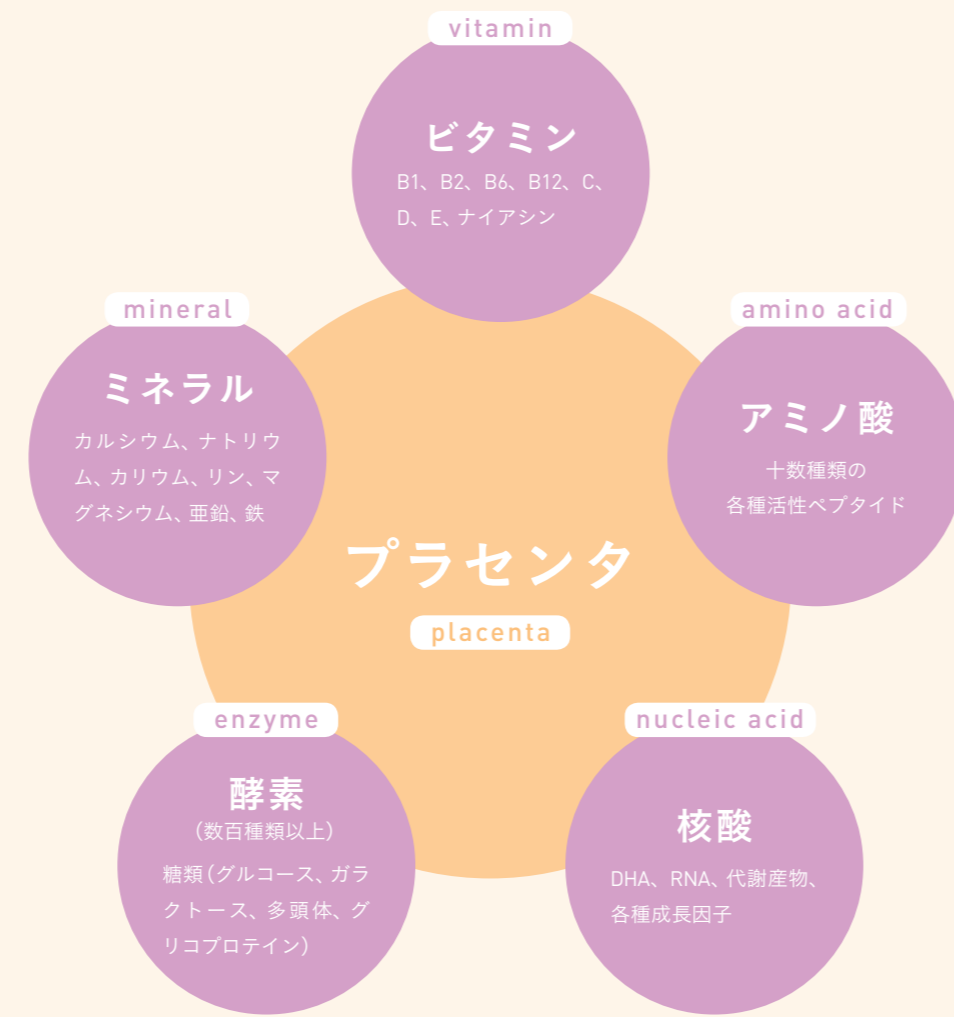


# プラセンタ 驚異のパワー

Unbelievable Placenta

## プラセンタ(胎盤)に含まれる五大因子



### プラセンタ注射の種類

ラエンネック注射	肝機能障害(保険適用)(日本生物製剤)
メルスモン注射	更年期障害(保険適用)(メルスモン製薬)

### 胎盤療法の有効対象一覧表(ラエンネック注射・資料より)

総合的病名	立的病名
総合織増殖症	肝硬変症・慢性肝炎・脾硬変症・ケロイド
手術後腹膜癒着・前立腺肥大潰瘍症	胃十二指腸潰瘍・レントゲン潰瘍・凍傷潰瘍 角膜潰瘍・下腿潰瘍・特発性脱疽
アレルギー性疾患	気管支喘息・リウマチ・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹
老化現症	更年期障害・精力減退・活動力減退・五十肩・卒中
その他	高血圧症・神経痛・神経症・アルコール中毒症 肝斑・胃下垂・夜尿症・糖尿病・ヒロポン中毒症 妊娠中毒症・月経困難症・腸無力症(便秘)

2016年4月現在



ラエンネック注射



メルスモン注射

### Q1 プラセンタエキスって何?

胎盤から抽出した抽出液のことです。胎盤は、一時的に哺乳類にしかできない臓器で胎児の成長を司っています。一つの生命を育て上げる為の有用成分がたくさん含まれる美容、健康栄養成分です。しかし、一言でプラセンタエキスと言っても、胎盤の種類や、抽出方法によってエキス(製品)に大きな差があります。

### Q2 プラセンタエキスに人間の胎盤(プラセンタ)を使った物はないのですか?

非合法な物を除き、プラセンタ製品には下記のような決まりがあります。(2009/06現在)  
\*医療用注射液=ヒト(人間)の胎盤  
\*薬店用一般薬品=ブタの胎盤  
\*医薬部外品・化粧品=主に、ウマ・ブタの胎盤  
\*サプリメント・飲料水=主に、ウマ・ブタの胎盤  
人間の胎盤は人間の血液が含まれており、法律に適用した設備・管理でないと感染症等の危険があります。よって国の法律により分別がなされています。

### Q3 プラセンタエキスの主なエキスの抽出方法は?

プラセンタエキスの主な抽出方法は大きく分けて4種類あります。  
1、酵素分解法 = 多種の酵素を用いて、選択性をもって有用成分抽出  
2、塩酸分解法 = 塩酸で、細胞の全てを壊して抽出  
3、凍結融解法 = 冷凍・解凍を、繰り返し水分積差を利用し抽出  
4、超臨界抽出法= 二酸化炭素を用い、温度・圧力等を調節した溶解抽出  
※酵素分解は処理等で各社各様の技術、又、酵素の種類等でエキスに大きな違いがあります

### Q4 最近よく目にする、植物プラセンタ・海洋性プラセンタ様って何?

胎盤は、哺乳類特有の臓器であり、植物には胎盤は存在せず、日本での学術名は胎座と云います。従って化粧品や食品の製品定められている、全成分表示の原料名(原材料名)の所に、プラセンタエキスとは書いてない、又は記載出来ないはずですが。海洋生物ではクジラ・イルカ・アザラシなどが、哺乳類です。市販されている海洋性プラセンタ様は、鱈科魚類の魚卵を包む膜を用いているようです。魚類に胎盤は存在しませんし、魚卵は胎盤ではありません。

### Q5 プラセンタ(製品全般)はアンチエイジングに良いのでしょうか?

胎盤の本質は、赤ちゃんの全てのバランスを整え代謝を促進させ維持させることです。通常プラセンタを使うと赤ちゃんの状態に戻そうと働くことが多く、これがアンチエイジングとして働くと考えるのが解りやすいと思います。具体的には、抗酸化・血管新生・ホルモンバランスの改善・細胞活性化・GF(グロソファクター)などによります。

### Q6 近年、馬(特にサラブレッド)のプラセンタをよく耳にしますが?

サラブレッドプラセンタは初期の全盛期(狂牛病問題以前)の成分(牛)に、最も近い有効成分があります。抽出方法も大切なファクターです。ブタは、年2,6回の出産率(胎盤が6~8個)に対し、馬は年1回(胎盤1個)、いわゆる商業ベースからも、管理や経費の面からみても馬は貴重だといえるでしょう。特にサラブレッドの場合、業者でトレーサビリティの管理を徹底されている事も安全面で大切なことです。ブタプラセンタにも長年に渡って多くのデータが蓄積されています。

### Q7 プラセンタスキンケア・肌にとどのような(美白・シワ・シミ・ハリ)効果?

プラセンタは、お肌を少し前のお肌の状態に戻そうと働くようです。小皺でお悩みの方は小皺が浅くなる、張りでお悩みの方は張りが増える、シミでお悩みの方はシミが薄くなる、基本的にはターンオーバーを正常に戻そうとする働きがあるようです。お使いになる方のトラブル次第だと思います。

プラセンタ(胎盤)は赤ちゃんを育てる臓器です。そして、胎盤にとっての体の正常な状態とは、胎児の正常な状態なのです。

身体には、常に年齢よりも若く、正常値に戻そうと働きかけるのです。つまり、「上がりすぎたら下げる物質を、下がりすぎたら上げる物質を」

肌は、スベスベした潤いのある、赤ちゃんの肌をつくろうとします。つまり、「足りないものを補い、過剰なものを抑える」

これこそプラセンタが古来より、身体や肌をリフレッシュさせる、若返りの妙薬ともいわれてきた理由でもあります。又、現在も様々な医療の現場でプラセンタが使われている所以でもあります。

### 監修者のご紹介

#### ■ 略歴

大阪府立北野高校卒業、近畿大学医学部卒業 近畿大学第4内科(呼吸器、アレルギー内科)入局  
近畿大学大学院卒業医学博士取得、近畿大学医学部附属病院助手  
米国ノースウエスタン大学分子薬理学教室助教授  
聖マリアンナ医科大学勤務等を経て、2011年12月「かきお駅前さいとうクリニック」開設

#### ■ 資格

医学博士、日本内科学会認定医、日本アレルギー学会専門医

#### ■ 専門分野

気管支喘息、花粉症、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などアレルギー性疾患  
呼吸器内科、一般内科



かきお駅前さいとうクリニック  
院長 齋藤光代

かきお駅前さいとうクリニック ー内科・アレルギー科・呼吸器内科ー  
川崎市麻生区上麻生6-39-35 <http://www.kakiosaito-cl.jp>

製作協力：株式会社東京美肌研究所



# 胎盤（プラセンタ）の働き

赤ちゃんをはぐくむ生命パワー・難病や肌などへの作用で脚光を浴びる

古来、健康や美容などに愛用されてきたプラセンタが今、再び注目されています。現代医療でも対応しきれない様々な難病を始め、厄介なお肌のトラブル等にも大きな作用を持つことが明らかになりつつあります。最近では、日本胎盤臨床研究会（JSCPR）で現場医師による臨床データを基に様々な観点からプラセンタを、医師同士で日々向上させています。これによりプラセンタを用いる医師が、年々増加してきました。

## プラセンタっていったい何、その奇跡的な働きは？

プラセンタとは胎盤のことです。妊娠した女性がお腹の中で胎児を育てるためのものです。従って生命を育む源であるプラセンタには、人間の生命をつかさどる重要な鍵が隠されていることが、様々な研究から解明されてきました。また、東京大学医科学研究所で、世界初『胎盤から骨・神経細胞』を日本再生医療学会で発表されました。（2002年4月16日　読売新聞より）胎盤は受精卵が子宮の内壁に着床後、絨毛という無数の糸状の突起物が延ばされ、子宮内壁に結びついて形成されます。胎盤と臍帯・臍帯と赤ちゃんが連携することにより胎盤の役割はとても重要な臓器となります。その働きが未熟な赤ちゃんの多くの器官の代わりをつとめることです。

## 未熟な赤ちゃんを（胎児）カバーし、様々な器官の機能を代行する

「母体内胎児と胎盤の役割」のいくつかの例をまとめてみます。
●肺機能（呼吸作用）では、自分で呼吸できない胎児の代わりに、母体の血液から酸素を取出し、供給します。胎児から排泄された炭酸ガスは母体の血液に送られ排泄されます。
●肝臓機能（代謝作用）では、母体の血液からタンパク質の合成やブドウ糖の合成を促進して胎児に送り込みます。
●腎臓機能（排泄機能）では、胎児の老廃物を母体の血液に送り込みます。老廃物の混じった血液は、母体の臓器で処理されます。
●その他、脳下垂体・卵巣の内分泌作用や、脾臓に代わって免疫力をカバーする等その身代わりの機能は計り知れません。
胎盤で育てられる受精卵は、直径0.1ミリのごく小さな生命です。ところが、この受精卵はわずか280日で重さ3〜4キログの胎児に成長します。もし、そのままのスピードで育ち続けるとしたら、一年後には、なんと身長が3200メートルに達し、三年後には、ほぼ地球と同じ体積になってしまいます。それよりもっと驚くことが、仮に胎児の細胞分裂のスピードが左右で1％狂ってしまうと出産時には3〜4倍の大きさの差が生じます。こんな猛スピードで育ちながらも、生まれてくる赤ちゃんには、個々の成長に伴う誤差がほとんどありません。

## 少しの誤差も無く精密にコントロールしながら、正常値を保持して成長する

実はその秘密がプラセンタに潜んでいるのです。プラセンタは細胞を活性化させると同時に、成長に伴うほんのわずかな誤差をも生じさせない様に精密なコントロールを行っているのです。また、プラセンタはこの成長過程で胎児に必要なものを生産し、へその緒を通じて胎児に与えていると言う事も分かっています。しかも正常値から外れない様に、「上がりすぎたら下げる物質を、下がりすぎたら上げる物質を」ともに分泌して機能を調節しています。胎児の完璧な成長の秘密は、プラセンタの働きによるものです。

この他にもプラセンタの役割は、まだまだあります。受精卵の分裂がどんなに早くても、そのままでは臓器や筋肉、血液などは形成されません。分化といってそれぞれの固有の細胞に変化しなくてはならないのです。
●HGFと言う物質を生産し、その作用で肝臓細胞に分化させます。
●NGF物質作用で神経細胞ができます。
●CSF物質作用で白血球が作られます。
●EGF物質で上皮成長因子が作られます

つまりプラセンタは胎児の全ての組織を分化誘導する役割を果たしています。

人体に有効な薬理作用の宝庫とわかり、医療の現場でも用いられる

母体の子宮で発育する胎児に、これだけの役割を果たすプラセンタには、人体にも有効に作用する成分が豊富に含まれています。アミノ酸や数多くの活性ペプチドを始め、ビタミン、ミネラル、酵素、糖類、核酸など、数えきれない程の成分を秘め、まさに薬理作用の宝庫です。副作用がないうえに、人体への自然治癒力をもたらします。

画期的な作用に着目した内外の科学者たちが、組織療法として胎盤を医療に応用する研究を続けてきました。その結果、プラセンタエキスが開発され、厚生労働省認可の注射薬・薬剤として医療の場でも様々な治療に用いられています。

## 古来の療法が現代医療に甦る、数多くの薬理効果を医師たちも確認

プラセンタは紀元前400年頃、医学の父と呼ばれるギリシャのヒポクラテスが治療に使用したという記録が残されています。東洋医学でも薬河車という名前のポピュラーな漢方薬として使われてきました。近代医学に再登場したのは、組織療法でした。これは旧ソビエト連邦のフィラートフ博士が角膜移植にヒントを得て研究したもので、冷蔵管理した安全な胎盤を病気の部分に埋め込み、様々な病気に効果を上げました。

## 組織療法から独自のプラセンタエキスが生まれ、厚生労働省も認可

当時ソ連は欧米から独立し、第2次世界大戦の直前でもあった為、組織療法は画期的であったにもかかわらず、一部で関心を集めただけでした。ところが戦後この療法が思わぬルートで日本に渡ってくるようになったのです。その橋渡しをしたのが、満州医科大学の教授だった稗田憲太郎博士です。稗田博士は戦後も現地に留まり、医師として活動しているうちに、フィラートフ博士の論文を目にする機会があり、『組織療法』に着目しました。1953年に帰国した稗田博士は久留米大学の教授を務め、胎盤と『組織療法』についての研究を独自に続けました。他の組織に比べて遥かに効果の大きい胎盤から、エキスを取り出して注射に出来ないかと考えた稗田博士は、冷蔵した胎盤からエキスを抽出する『冷凍胎盤漿液療法』を確立しました。胎盤漿液とはつまりプラセンタエキスのことです。

更に1959年には、注射液として開発された『ラエンネック』という肝硬変の薬が厚生労働省の認可を受けます。稗田博士によって、日本にもたらされた『組織療法』は、昭和30〜40年の前半頃にかけて、全国の国立病院でも熱心に行われるようになりました。しかし、その後『組織療法』は、少し下火になりました。これには二つの理由がありました。

●**手術施設の完備**

体内に異物を（胎盤）を埋めるわけですから、無菌状態で手術を行うことが必要なのですが、当時の施設はまだ技術的にも、費用的にも完全無菌除菌が難しかったこと。

●**胎盤の確保とその保存法**

後産によって子宮から出た胎盤には、大量の血液が付着しています。胎盤内の毛細血管を広げるとテニスコート2面分にもなり、膜に覆われた胎盤内はたっぷりと血液を含んでいます。

したがって、人体に埋め込むとなると、完全に脱血しなければなりません。別の血液型が人体に混入されると抗体が暴たり、その他の感染症の心配もあるからです。ブタ・ウマ等の動物の胎盤から抽出されるプラセンタエキスも人間の胎盤と同じような作用はありますが、やはり血液を除去しないとアレルギーが起きる恐れがあるのです。

昭和30〜40年当時は胎盤だけの為に、病院が完全無菌室を整備するとか大掛かりな洗浄装置を導入することは大変なことでした。また、産科を持っている病院でないと、胎盤の確保が難しいうえ確保できたとしても、保存が困難だったのです。

## MEMO

技術の進歩で問題をクリアし、下火だった治療が復活

しかし現代ではこうした問題は解消されています。プラセンタエキスを確保し生産するメーカーの最新設備の工場では、高い技術力によって管理をシステム化されています。品質に関しては、万全の人員を配置し、様々な試験法に準じたクオリティの高いプラセンタエキスが商品となっています。以前下火になったとはいえ、全ての医師が『組織療法』を投げ出した訳ではありません。

今、再び医療・医業の世界で大きな注目を浴びています。特に、このところプラセンタ注射や内服薬による効果を取り上げられています。プラセンタ治療を行う医師たちも二つを併用して用いることが多いようです。

プラセンタを用いた治療が再認識されてきたのは、これまでの化学療法（対処療法）の医療に対して不信感を抱く医師が増えてきた結果と思われる。

## 病氣と闘う現代医療から、病氣に耳を傾ける医療へ

例えば、肝炎の場合、インターフェロン薬の投与が行われますが、インターフェロンとは、ウイルス感染に抵抗する為に体の中で作られるタンパク質の一種です。肝炎になってしまうと、自然に作られるインターフェロンでは足りないので人工的に作られた物（薬）を体内に入れて、肝炎と闘わせようとするのがインターフェロン治療の本来の目的です。

しかし、人工的に作られたインターフェロン薬が身体になじまず、吐き気や熱などの酷い副作用を伴います。この強烈な副作用に悩まされる患者さんが多いことも事実なのです。しかも注射によるインターフェロン薬を投与すると、身体に十分な量があると錯覚して、自らインターフェロンの生産を止めてしまいます。こうなると、ますます体内のインターフェロンが枯渇し、更に大量のインターフェロン薬を投与するという、イタチゴッコの繰り返しになってしまうのです。

この治療に不信感を抱く医師も多くなります。

## リウマチや腰痛も……嬉しい副作用と、薬理効果

プラセンタが再び脚光を浴びたのは、副作用もなく肝炎が治るといばかりではありません。プラセンタ注射を受けた人々の身体に、いい意味での副作用で様々な効果をもたらしました。リウマチの症状が軽くなったり、腰痛や肩こりが解消されたり、肌が綺麗になったり、美白効果があったり、風邪をひかなくなるなど「元氣・綺麗」になる患者さんが大勢います。

今までに確認された主な臨床効果には次のようなものがあります。

- 自律神経のバランスを整える（肩こり、頭痛、腰痛、シビレ、冷え性）
- 肝臓の働きを強める（解毒作用を高める）
- 新陳代謝を活発化させる（各器官の活動を高め、老廃物をためない）
- 免疫力を正常にする（喘息、アトピー性皮膚炎、湿疹、アレルギー疾患などの抵抗力を高める）
- 内分泌系のバランスを整える（ホルモンバランスの乱れから起こる更年期障害などをおさめる）
- 毛細血管を作って血行をよくする（手足の冷えがなくなり、細胞が活性化する）
- 炎症を抑える（傷や火傷などが早く治る）

このように、余りにもたくさんの薬理効果があるので驚かされます。しかし、これはまだプラセンタの広範囲にわたる相乗的な作用の一部なのです。

「足りないものを補い、過剰なものを抑える」プラセンタの本来のバランス感覚が身体全体に総合的な作用をした結果と言えるでしょう。

肌や身体に抜群の若返り作用・内側から組織の再生を働きかける

プラセンタには健康と同時に美容面での作用もあります。歴史上、美貌で有名なエジプトの女王クレオパトラや、フランス革命で処刑されたマリー・アントワネットが美容のために胎盤を使い、秦の始皇帝も不老長寿の妙薬として用いていたと言う歴史も残されています。

## 年を重ねるとシワが多くなる

人間の肌は大きく分けて、皮下組織、真皮、表皮という3つの部分があります。でも本当に皮膚と言えるのは、真皮と表皮です。真皮は表皮の下にある厚い層で皮膚の土台です。土台とはいえない組織ではありません。たっぷり水分を含み、それを通じて血液からの栄養分を表皮に運んでいます。内部がジャングルジムの様な構造で、女性にはおなじみのコラーゲンがパイプの役割を果たし、それから交差する部分のジョイントには、エラスチンというバネ状の弾力組織があります。このジャングルジムによって守られているのが、ヒアルロン酸などの、水分を含んだ寒天状の基質です。この組み合わせによって真皮は水分の多い層でありながら、弾力性に富んでいます。

## コラーゲンやヒアルロン酸・エラスチン入りの化粧品を使っても、肌に浸透しない

最近では、コラーゲンやエラスチン、ヒアルロン酸などが配合されている化粧品をよく見かけるようになりました。「私は毎日補給しているから大丈夫」そう思った方も多いのではないのでしょうか。しかし実際にはこういった成分のほとんど肌からは浸透しません。毛穴や汗腺から少量入ることはあっても表皮・表面は角質層でガードされている為、分子量の大きい成分は真皮まで届かないのです。もし真皮まで浸透したとしても、化粧品に含まれるこれらの成分が、皮膚の中で再合成・再形成されることはありません。表皮の隙間か

## ガード役の角質層を無理にはがすとバリアが壊れ、トラブルを招きます

コラーゲンやエラスチン等の化粧品が肌に浸透しないのなら「いっそ角質なんてとってしまえ！」と考える人がいるかもしれません。それでなくとも昨今美容界では角質は悪者扱いとされてきました。肌のくすみや、日焼けによるメラニンの沈着…?そうした事は古い角質が原因だと言われています。角質を汚れと共に落とす洗顔料やパックが流行の時代もありました。しかし、人間の身体には無駄な組織はほとんどありません、角質にも大変重要な役割があるのです。

表皮は全部で5つの層にわかれています。表面から順に、角質層・透明層・顆粒層・有棘層・基底層です。透明層は手と足の裏の皮膚だけにあります。一番奥の基底層は細胞分裂を繰り返す表皮の源となる細胞の層です。ここで作られた細胞が、次々と押し上げられる形で、表皮の表面に向かって上へ上へと移動します。この過程で、姿・形を変えながら角質層になるのです。この期間は通常14日程かかります。角質化した表皮が剥がれ落ちるまで、さらに14日を要し、この28日間の新陳代謝のサイクルを「ターンオーバー」と呼ばれています。ただしこれは、肌が健康で元氣な場合のモデルケースです。

## プラセンタパワーが、赤ちゃんの時の肌に戻そうとする

よく恋する女性は美しくと言われるますが、それは事実です。人を好きになると女性ホルモンが活発になり肌に作用するからです。ホルモンバランスの乱れや低下も加わって、年齢と共に女性の肌機能は衰えていきます。細胞の分裂は低下し、新陳代謝が遅くなるのでターンオーバーが長くなります。また血行も低下し真皮の組織がダメージを受けやすく、肌の水分が保持できなくなり、シミやシワができやすくなります。　女性性としては全て避けたい事態です。

ところが、プラセンタエキスは様々な側面から皮膚機能を活発化させて、シワができるのを防ぎます。また皮膚の血行を良くして、皮膚の生理機能に必要な栄養素を送り込

す。古くから、美容、若返りに愛用されたプラセンタですが、近年それが医学的にも再確認されるようになりました。

## コラーゲンやヒアルロン酸・エラスチン入りの化粧品を使っても、肌に浸透しない

ところが、コラーゲン組織が古くなると、雑巾のようにねじれて壊れてしまいエラスチンも弾力を失って切れていきます。そうすると、支えている枠を失ったヒアルロン酸も切断されてしまいます。しかし、人間の身体はうまく出来ていて、古くなったダメ組織を再利用して再び新しい組織に作り直す繊維芽細胞というものがあります。若いときには、せっせと新しい組織を作ってくれますが年を重ねると、だんだん生産スピードが落ちて、再利用されない古い組織が真皮中にたまっていくようになります。最終的には、細胞が死んでしまい、ジャングルジム構造が消滅します。皮膚の表面積は変わらないのに、中の水分がなくなってしまいうわけですから、当然シワができ表皮も痛みます。

## コラーゲンやヒアルロン酸・エラスチン入りの化粧品を使っても、肌に浸透しない

最近では、コラーゲンやエラスチン、ヒアルロン酸などが配合されている化粧品をよく見かけるようになりました。「私は毎日補給しているから大丈夫」そう思った方も多いのではないのでしょうか。しかし実際にはこういった成分のほとんど肌からは浸透しません。毛穴や汗腺から少量入ることはあっても表皮・表面は角質層でガードされている為、分子量の大きい成分は真皮まで届かないのです。もし真皮まで浸透したとしても、化粧品に含まれるこれらの成分が、皮膚の中で再合成・再形成されることはありません。表皮の隙間か

又、プラセンタの注射や内服薬・サプリメントの摂取等と、日々のバランスの崩れた食事で日常自然のサイクルで繊維芽細胞に働きかけ体内で細胞を活性化させることも大事だと言えるでしょう。

## ガード役の角質層を無理にはがすとバリアが壊れ、トラブルを招きます

本来角質層は皮膚のバリア機能の役割を果たしています。しかしアレルギー等で湿疹がひどいときには、角質は14日間も持たずどんどん剥がれていってしまいます。こうなると、顆粒層や有棘層、そして基底層クラスの表皮が一番上に押し出されてしまい、まだバリア機能が備わっていない層が、角質と同じ役割を果たさなければなりません。バリア機能が低い肌はどんどん弱くなり刺激を受けやすく、剥がれ易くなります。この悪循環に陥ってしまうと肌の機能は低下するばかりです。

アトピー性皮膚炎がこのパターンです。こうしたことから角質を人工的に剥がすことは肌にとどれだけ悪影響を及ぼさか、理解できると思います。どんどん肌を掘っていく様なもので、少しの刺激にも耐えられないトラブルだらけの肌になってしまいます。美容整形などで表皮を化学物質で剥がすピーリングが人気を呼んでいましたが、無理に角質を剥がしたところで肌は若返ったりしません。

大切なのは、古い角質を無理やり剥がすのではなく、自然に剥がれ落ちる様に肌の新陳代謝のサイクルを整えることです。

## プラセンタパワーが、赤ちゃんの時の肌に戻そうとする

むとともに老化した角質が留まらないように、ターンオーバーをスムーズにします。さらに皮膚を酸化させる活性酸素を除去し、細胞の分裂を活性化させ新しい組織をつくることによって真皮のダメージを防ぎます。

一つ一つの細胞に呼吸させ活性化させるのは血液ですが、プラセンタには毛細血管を作る作用があります。プラセンタの何が作用するのかは、まだ良く解っていませんが実際に血管を作ったという臨床例はすでにあります。これが様々な病気の改善と共に身体の内部から肌を正常な状態（つまり赤ちゃんの頃）に戻していくのがプラセンタの大きな作用の一つなのです。